

各 位

東京都中央区京橋二丁目5番18号
 株式会社マネースクウェア・ジャパン
 代表取締役社長 相葉 斉
 (東証第二部 コード番号: 8728)
 問合せ先 業務管理部 IR/広報担当
 シニアマネージャー 西田 大助
 電話 03-5524-8880(代表)
<http://www.m2j.co.jp>

平成25年3月期業績と前期実績との差異に関するお知らせ

平成25年3月期(平成24年4月1日から平成25年3月31日)の業績と、前期(平成23年4月1日から平成24年3月31日)の業績との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成25年3月期業績と前期業績との差異(非連結)

(単位:百万円, %)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A) (平成24年3月期)	2,623	432	422	235	4,814円71銭
当期実績(B) (平成25年3月期)	3,717	1,316	1,311	800	16,832円67銭
増減額(B-A)	1,094	884	889	565	12,017円96銭
増減率(%)	+41.7	+204.7	+210.3	+239.7	+249.6

2. 差異の発生理由等

当期がスタートして半年ほどのマーケット環境は、一般的に低ボラティリティでリバウンドがあまり見られない円高相場が続き、特に第2四半期は想定以上にボラティリティが急低下したことにより顧客取引高の伸び悩みに大きく影響する時期もございましたが、昨年3月以降に段階的にリリースした「トラリピ(R)プロジェクト2012」第1弾「せま割20」、第2弾「らくトラ」、第3弾「ポケットラ」、さらには、昨年10月以降にリリースした「トラリピ(R)プロジェクト2012 SEASON2」第1弾「せま割5」、第2弾「ポケットラ for Android」のそれぞれが、リリースした当時のマーケット環境や顧客ニーズに最適にマッチし、特に「せま割20」「せま割5」に関しては、長く続いた低ボラティリティ相場において、当社の取扱通貨ペアの中でも特に「豪ドル/円」や「南アフリカランド/円」の取扱高の急増に見られるように、かなりの効果が如実に表れました。また、第3四半期以降においては、円高傾向で長い低ボラティリティ相場だったマーケット環境にも変化が表れ、円安トレンドへの転換時期と相重なったことや、かねてから「せま割20」や「せま割5」等によって顧客からの注文指値量が急増していたこと、さらには、円安トレンドへの相場変動に対しても、高低差や高ボラティリティ相場への対応には『らくトラ』を用いたトラリピ戦略等が奏功する等した結果、営業収益は3,717,885千円(前期比41.7%増)と、大幅な増収となると同時に過去最高の営業収益となりました。

営業費用に関しては、前期と比べて人員数の増加、地上波でのTV番組の提供やプロ野球「東京ヤクルトスワローズ」とのオフィシャルスポンサー契約といった今までとは違ったブランディング・プロモーション活動に取り組み、また、創業10周年記念セミナーやイベントの実施、さらには、ブランディング強化を目的にその他にも積極的に継続して展開している広告宣伝・PR活動等に係る費用等の増加要因があったものの、営業収益の増加率に対しては大きく抑制することができた結果、2,401,390千円（前期比9.6%増）となり、営業利益は1,316,494千円（前期比204.7%増）と大幅な増益となりました。営業外収益は受取利息の他に定置用リチウムイオン蓄電池導入促進対策事業費補助金収入等を計上したことで4,607千円、営業外費用は支払利息等の計上で9,406千円となった結果、経常利益は1,311,696千円（前期比210.3%増）と、営業利益と同じく大幅な増益となりました。また、特別損失として固定資産除却損を5,298千円計上した結果、税引前当期純利益は1,306,397千円（前期比214.0%増）となり、法人税等合計額を505,524千円計上した結果、当期純利益は800,873千円（前期比239.7%増）と大幅な最終増益となり、営業利益、経常利益、当期純利益の全てにおいて過去最高益となりました。

以 上